

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000131		
法人名	株式会社Human-Grow		
事業所名	グループホーム自由の詩		
所在地	小樽市入船5丁目13番13号		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年に開設して入居者、御家族、地域住民等の支えにより今年で7年目を迎えます。
ホームからは天狗山、小樽港、入船公園の景色を眺める事が出来て自然環境にも大変恵まれています。地下多目的ホールを使用して食事会、カラオケ大会、琴の演奏会等色々な行事も多数行っています。また、町内会の協力も得てゲーム大会への参加も毎年行っています。職員の定着率も良くお互いに協力しながら入居者本位の介護となるように努力しています。今後も地域の皆様にとって少しでもお役に立てるように頑張ってくださいと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani%3D%3E&Jigvsvocd=0192000131-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、地上2階、地下1階の3階構造で、地下には51畳の多目的ホールを設置し、地域交流の場として開放している。周辺は閑静な住宅街で、入船公園が隣接し、2階のユニットからは前方に石狩湾が、後方には天狗山が眺望でき、自然豊かな環境にある。地域とは相互の行事に交流があり、運営推進会議に於いても事業所の質向上に繋がる意見や提案、情報を得ている。利用者の個性や要望を重視する支援を目指し、家事などで持てる力を発揮出来る場面作りや、誕生日での要望に応え、家族の協力を得て外出、外食を支援している。利用者の晩酌に付き合ったり、花見や温泉など外出行事を企画し、気分転換を図っている。職員は、利用者が生活の場として安心して笑って過ごして頂きたいと、理念に沿った利用者優先のケアサービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に掲げた理念を職員の名札や事業所内に掲示をしていつでも確認できる体制を取り日々のケアにつなげている。	利用者や地域との関係性を重視した理念を事業所内に掲示し、さらに名札の裏に印字した理念を挟み、職員の意識付けを図っている。日常業務や会議時に理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年に1度地下多目的ホールで地域の方々を招待しての交流会を行っている。町内会のゲーム大会にも参加させて頂き地域の一員となるようにしている。	町内会活動(清掃、ゲーム大会等)や事業所行事(運営推進会議、敬老会等)には相互に参加があり、また、介護相談も受け入れている。ボランティアによる琴演奏は、利用者の楽しみになっている。地下にある多目的ホールを地域交流の場として開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先の看板に「介護についての相談を承ります。」と掲示して地域の方々の不安や疑問になるような事を聞けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回程度町内会長を始めとした地域住民、包括支援センター職員、御家族代表の参加により運営推進会議を行いお互いに情報交換を行っている。	会議は、定期的に町内関係者、包括職員、家族の参加の下開催され、事故報告、防災、身体拘束等について意見交換が行われている。各立場からの情報提供もあり、運営に活かしている。	複数の家族へ参加要請を行っているが、出席には至っていない。継続しての呼び掛けと消防や警察署員の参加要請を考慮しているので、その実行によりとさらなる会議の活性化を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や確認を行いたい事案が発生した場合には介護保険課、生活支援課の職員に相談を行い協力関係の構築を行っている。	運営に関する相談や事故報告等の提出時は、ホーム長と法人職員が対応している。実地指導や集団指導に於いても、担当者から情報や助言が寄せられ運営やケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行いながら知識の習得、情報共有し身体拘束を行わないケアの実践をしている。玄関の施錠も行っていない。	身体拘束廃止宣言を共用空間に掲示し、さらにマニュアルや外部・法人・内部研修等で具体的な行為や弊害について学び、実践に努めている。職員間でも注意し合う関係にある。セコム警報システムを導入し、防犯に備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修を通じて虐待について学ぶ機会を設けながら職員の情報交換を密に行い小さな事も見過ごさないようにして防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列グループホームも含め成年後見制度を利用していただ方からの話を聞く機会を設けて活用できるように準備を行っている。包括支援センターからも日常生活自立支援事業の情報も得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はゆっくりと時間をかけて行き分かりやすい丁寧な言葉で御家族、本人に説明を行ない理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な電話連絡や面会時を通じて御家族からの意見や要望を聞くようにして日々のサービスの参考に行っている。	利用者の様子は、月に1回ホーム便りや手紙、電話で報告している。家族来訪時や年2回の家族交流会でも詳細に伝えている。利用者や家族の意見は、解決に向けて職員間で協議し記録に残している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の職員との会話や会議を通じて職員の意見を聞き代表者とのテレビ会議の中で提案を行っている。	代表者や法人職員は、常時事業所を訪れ職員の意見や要望を傾聴し、働きやすい環境作りに努めている。職員は、広報など各分野を担当する中で、上司に意見や提案を述べ、ケアの充実に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数、保有資格、役職に応じた給与体系になっており職員が長く勤務できるように条件の見直しを常に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性、特性を考慮して外部への研修を受ける機会を設けている。資格取得への協力も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループホーム内での交流する機会を増やして情報交換を行えるように配慮している。市内グループホーム協議会の研修や懇親会にも色々な職員が参加できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を検討されている方には直接本人から話を聞く機会を設けて現在(今後)の生活に対する不安や要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と一緒に御家族にもホーム見学やお話を聞き不安や要望の確認を行い関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には管理者、介護支援専門員、看護師等によりアセスメントを行い必要とされているサービスを検討して実践につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員が全てを行うのではなく本人のできる事をお願いしている。途中でやり方が分からなくなった場合には声掛けもしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にはホームでの様子をお伝えし不安や気分の浮き沈みがある時には面会や電話連絡等の協力をお願いする場合もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴を考慮して可能な限り関係が継続できるようにし面会制限などを設けることなく自由に交流できるようにしている。	職員は利用者から昔話を聞くなど、生活歴の把握に努めている。職員は、受診後に以前の住まいまで同行したり、家族が美容室や温泉に付き添っている。命日に訪れる住職や元教師の教え子の来訪を快く迎えるなど、社会的繋がりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごす時間をなるべく少なくするように声掛けをしリビングへの誘導を行ない利用者同士の会話の間に入り橋渡しをして孤立しないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された御家族の情報がある場合には入院先や新しい生活の場に出向き交流を行い関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には本人から要望、意向の確認を行っている。入居後も日々の会話から変化や仕草に注意を行いより良い暮らしができるようにしている。	職員は、日々の関わりの中から得た言葉や仕種、表情などを詳細に記述し、何を望んでいるのかを模索している。買い物をしたい、晩酌をしたいなどの要望には、出来る限り応じる態勢を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、知人の協力も得ながら今までの暮らしぶりを確認しながら情報の収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活で普段と違う表情、体調面等の変化に注意をしながら現状の確認を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となりサービス担当者会議、モニタリング等を通じて本人、御家族、職員からの聞き取りを行い安心した楽しい生活が送れるようにしている。	介護計画は、3～6ヵ月毎に見直しをしている。更新時は利用者や家族から生活への意向を収集し、職員の意見交換を経て計画を作成している。介護記録に計画の実践を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調面、精神面等に注意をしながら日々の介護記録を記入している。職員がいつでも閲覧可能な所に保管して情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとってより良い暮らしが継続できるように常にニーズの確認を行い可能な限り介護保険外のサービスも含めて検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等での地域と交流や訪問販売を通じて地域資源を活用して豊かな暮らしになるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までと同じ医療体制を継続できるように本人、御家族との話し合いを設けている。継続が困難な時にはホーム看護師を交えて可能な限り要望に添えるようにしている。	利用者や家族の希望する医療機関に同行支援を行っている。協力医による月2回の往診と各々の主治医の都度の往診もあり、加えて、週2回の法人職員の看護師による健康チェックも行われ、健康状態は関係者の共有としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と24時間連絡が出来る体制を取り日々の生活状況や状態変化の報告を行っている。ホーム看護師より主治医への連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活状況をお伝えして適切な診療が受けられるようにしている。入院先にも見舞いに行き早期退院に向けて医療機関との連携もやっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合のあり方を説明している。終末期に近づいてきた時には再度御家族、医師、看護師等とも協力を行いながら本人が望む暮らしの検討をしている。	契約時に重度化や看取りに関する指針を文書で説明し、利用者や家族から同意書を得ている。看取りを経験しており、救命救急法の受講や看護師による勉強会等でさらなる知識や技術の習得に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に定期的に急変時における対応の研修を行っている。毎月の会議において管理者が確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いや自主避難訓練を行っている。多数の職員が参加できるように複数回実施したり運営推進会議を通じて地域の方々にも参加して頂く事もある。	日中想定自主訓練と、消防署の指導の下での日中想定避難訓練を実施している。今後、運営推進会議のメンバーの参加の下、夜間想定や自然災害の訓練を計画している。町内会や系列事業所との協力体制も構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を意識して丁寧で優しい言葉掛けを行うように日頃から注意をしている。	利用者への接遇については常に職員間で話し合い、言葉遣いや入浴、排泄、着替えなど羞恥心への配慮にも努めている。個人記録は居間の隅で記載し、書類も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で本人が思いや考えを表現できるような関係性を作り希望がある場合には自分で決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先させず利用者のペースに合った暮らしを送る事ができるように可能な限り時間の制約をつけずに自由に暮らして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を考慮しながら偏った服装にならないよう支援を行っている。外出時には普段と違った服装になるような配慮も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室で一人で食事を行う事がないように食事時にはリビングに誘い他入居者と一緒に召し上がって頂けるようにしている。準備や片づけも協力して頂いている。	献立と食材は業者から届くが、事業所でも食材を用意し利用者の要望に柔軟に対応している。献立をアレンジしたり、菜園での野菜を活用している。バイキング方式や外食に出かけたりと、利用者と一緒に食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事量、水分量を記載して摂取量の確認を行ない偏りが出ないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアの声掛けを行い個々の状態によって支援を行っている。義歯洗浄剤も使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの確認を行いながらさりげなくトイレ誘導をし失禁が減るように努力をしている。おむつの使用をしている方も常時ではなく昼夜に分けて行うなどの工夫を行っている。	利用者の排泄状況は排泄チェック表で確認し、声かけや誘導、状態によっては二人介助を行いながら、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。排泄用品の使用も適切に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を確認しながら軽運動や牛乳等の飲み物を勧めて可能な限り過度な服薬を行わないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番先に入浴をしたい等の希望を考慮して日によって浴槽を何度も洗い新鮮な気分で入浴して頂けるようにしている。入浴拒否がある方にはタイミングを変えて声掛けを行い心身のリフレッシュをしてもらえようようにしている。	毎日入浴出来る態勢であるが、午前と午後週2～3回入浴を基本とし、身体状況によりシャワー浴や二人介助を行い、ゆっくり入浴できるように支援をしている。入浴中は、鼻歌や普段は聞かれない話が聞かれケアプランに活かす場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は設けず本人の希望に添って就寝して頂けるようにしている。寝つきが悪くて不安な方には無理に寝かせるような事は行ってない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をファイルしていつでも確認できるようにしている。服薬変更時には効能、副作用等を職員同士で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調面、精神面を考慮してお手伝いをして頂きホームでの役割を持った生活が送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や町内のゲーム大会など戸外でのレクリエーションの企画を実行している。病院受診の帰りには馴染みのある場所にドライブや買い物に出かける事もある。	利用者と一緒に散歩がてらのゴミ拾いや買い物、菜園の成長を眺めたり、図書館に出かけている。近くのお寺の花見や温泉、外食など、家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。外出が困難な時は室内レクを企画し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、御家族の同意を得て自分で金銭管理を行っている方もいる。戸外での買い物や訪問販売時に利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の協力にて電話連絡を行う場合もある。年賀状や手紙が来た場合には本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感を感じる事が出来る様な飾りやカレンダーの設置を行っている。温度や湿度も定期的に計測して居心地の良い空間づくりを行っている。トイレの場所がわかるような工夫もしている。	玄関を開けると男びな女びなが鎮座し、華やかな雰囲気を出している。2ユニット毎に趣の違があるが、採光、温湿度、清掃に配慮があり、ホーム便りや紙細工の飾り物等が飾られ、落ち着いた空間になっている。2階の窓からは前方に石狩湾が、後方には天狗山の頂が眺められ、季節の移ろいも間近に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内はテーブル席、ソファがあり本人が気分によって自由に座れるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に見学をして全体像を確認してもらいなるべく新たな物を購入するのではなく今まで使用していた物を持参して頂き馴染みのある生活が送れるようにしている。	居室にはクローゼットが設置されている。居室作りは利用者や家族の意向を取り入れている。馴染みのタンスなどの調度品、仏壇、家族写真、飾り物などが置かれ、安らげる生活環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、トイレを複数個所設置して一度に複数の方が心身の状況に合わせて安全な生活を送る事が出来るようにしている。		